



敵基地攻撃能力と云うが実は米軍のいいなり？

「敵基地攻撃能力のあるミサイルを備える」と岸田自公内閣は云う。「敵基地攻撃」はとて、も危険で大変な事だ。「ミサイル発射準備中の『敵』のA基地に向けミサイル発射」の命令伝達、中間に立つ誰かが捏造すれば日本は戦争に突入。

米国のICBM基地では命令を二人の指揮官が別々に暗号で受け取り、別々に解読。二人が同時にボタンを押さないと発射できない。この為、何もしない為に常時ダブルで待機。専守防衛なら飛んで来たミサイルを迎撃するのには面倒はない。暗号も要らない。

本音は米軍に従属？

そもそも「敵」が「日本に向けてミサイル発射準備中」をどうして知るのか？何も無いままか？

台湾有事を仮定して、米軍が「敵」と対戦したら、米軍基地のある日本にミサイルが飛んで来る。集団的自衛権で日本も巻き込まれる。米軍に「敵のA基地でミサイル発射準備中」と云われて従うだけではないか？

岸田自公政権は「敵がミサイル発射準備中」をどう捉えるかなど考えてもいないのでは？

米国は高額なトマホークを売りつけて大喜び。少子化対策、教育、医療等々国民生活の為に予算を削って米国に貢ぐだけの事。

日米中の間の貿易は巨額、本当に事を構えたら経済は破滅する。

各国首脳は緊張を高める事が国内を抑えるのに便利だけでは？

あなたはどう思われますか？



吹通川のマングローブ

沖縄県石垣市野底

二〇二三年四月

石垣島の北部、野底を流れる吹通川。ここは、その河口近く。海水と川の水が入り交じる汽水域。

この周辺、川のはとりにや、絵の後方には根元に呼吸根がタコの足のように生えたマングローブ林がある。

ところが、ここには呼吸根や板根も無く一本だけで立っている木があった。河口に近い汽水域だから、ヒルギの仲間だろうか。

満潮の時に絵を描き始めた。徐々に潮が引き始めると足下にトビハゼが現れた。足のようになつた胸びれを使って歩いたり、ぴよんぴよん跳ねる。

この川はコンパクトなので、カヤックやSUPで容易に上流まで行くことができるそうだ。

様々なツアーが用意されている。

